

第3回甲州市学校再編審議会 会議録

I 会議概要

- 1 開催日時 令和8年6月23日(火) 19:00～21:00
- 2 開催場所 甲州市役所2階 第1会議室
- 3 出席者 青柳俊雄委員、柴田幸也委員、那須美智子委員、筒井好澄委員、
山縣重人委員、丸山正次委員、三枝ゆかり委員、山田浩委員、
秋山達明委員、塩野真綾委員、金子智和委員、伊丹千春委員
<事務局職員> 教育長小林俊彦、教育総務課長清水修、教育総務担当リーダー岡部裕美、
学校教育担当リーダー小林絵美、学校教育指導主事金森淳、同高野育愛
教育総務担当木曾川博文
欠席者 なし
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状の交付
 - 3 会長あいさつ
 - 4 教育長あいさつ
 - 5 委員及び事務局の紹介
 - 6 議事
 - (1)経過説明
 - (2)長野県大町市視察研修（学校再編と学校改革について）報告
 - (3)小学校再編に係るアンケート結果報告
 - (4)「小学校再編に係るアンケート」結果について（グループワーク）
 - (5)その他
 - 7 その他
 - 8 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 甲州市学校再編審議会委員名簿
 - 資料2 大町市の学校再編の取組について
 - 資料3 市内小学校の再編整備に関するアンケート調査について
 - 資料4 グループ討議資料「アンケートの結果について討議」

Ⅱ 会議録

1. 開会

事務局：定刻となりましたので、ただいまから第3回甲州市学校再編審議会を開会させていただきます。

2. 委嘱状の交付（新委員のうち筒井好澄委員へ代表交付）

3. 会長あいさつ

会 長：皆さんこんばんは。大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
3回目となり、前年度の終わってから審議を進め1回2回と、年度が変わりまして新たな委員さんを含めまして3回目の実施となります。将来の甲州市の小学校等を考える上でどんなふうに子供たちを育てていくのが一番良いのか、というような視点で幅広い意見をいただきながら、丁寧に将来像を探っていけたらというふうに思っております。本日は、保護者等へのアンケートもございまして、具体的な意見を拾い上げながら審議をしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

4. 教育長あいさつ

教育長：皆様こんばんは。一日のお疲れのところを第3回甲州市学校再編審議会にご参加いただきましてありがとうございます。ただいま青柳会長様からお話がありましたが、昨年の12月議会の中で鈴木市長が令和13年度の児童数が104人、併せて市内13校のうち過半数を超える学校が複式学級を設置せざるを得ないという状況の中で、子供たちの教育環境を考えるととても心配であるということで、教育委員会に小学校の再編の可否について意見をまとめるように指示したことを表明しました。2月5日には第1回甲州市学校再編審議会を立ち上げ、2回目につきましては、現在の小規模校の在り方についてご検討いただきました。本日が3回目となりますが、ただいま筒井好澄甲州市区長会会長様に代表して委嘱状をお渡ししましたが、半数を超える方が新たな委員としてお出でいただいておりますので、改めまして現在の学校の状況について、今後の甲州市の小学校の在り方について、そして学校再編の可否についてご検討をお願いしたいと思います。

次回細かい話をさせていただきたいと思いますが、平成27年度に文科省が策定した『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』につきましては11年ぶりにここで改定がされております。この内容につきましては、次回私から説明させていただきますが、平成27年度以降市町村内で小学校中学校が1校ずつしかない自治体が全国的にも増えている状況にあることだけお伝えさせていただきます。

併せて、5月28日に長野県大町市に学校再編に関わる視察を教育委員会で

させていただきました。後ほど議事の中で説明がありますが、私から概要を説明させていただきます。資料『大町市の学校再編の取組について』をご覧ください。『1 学校再編の経過と内容』をご覧ください。こちらの市は2018年から大町市の教育の在り方について検討を始めています。まず、義務教育のあり方ということで、少子化における義務教育のあり方検討委員会を発足し、教育環境維持のための再編方針がこの時点で提言されております。そして2021年に大町市学校再編計画を策定し、この時に中学校1校小学校2校への再編目標が示されました。そしてその再編計画に基づきまして、2023年の4月に中学校が大町中学校として新たに開校され、そして今年の4月に、旧大町市内の4つの小学校を閉校し、大町北部小学校と大町南部小学校2校に再編を行っております。あと資料だけ紹介させていただきますが、次のページ、そこに現時点での課題、それから大町市の今後の取り組みの方向性と検討内容、それから4番としまして、今現在の大町市全体の小学生数中学生数、各学校の人数がお示ししてありますのでご覧いただきたいと思います。

それではパワーポイントをご覧ください。大町市の今年5月31日時点の人口は24,770人です。甲州市は5月1日時点で26,804人となっております。ほぼ規模的には同じとなります。表示のグラフは児童生徒数の減少の状況が示されています。大町市の令和8年の小学校は児童数は932人、中学校生徒数は490人です。甲州市は小学校が1139人、中学校は632人ということで、若干甲州市が多いです。それで令和13年になるとどうなるかといいますと、大町市の小学生が661人まで減少し、中学生は435人というような状況になります。甲州市小学生は894人に減少し、中学生は544人まで減少してくるというような状況でございます。先ほど紹介した大町北部小学校、大町南部小学校、大町中学校が市の南側に位置しております。旧大町市小学校を2校、そして中学校1校に再編をしております。北部に美麻小中学校東部に八坂小中学校がございます。それで、再編計画が立つ前に美麻小中学校が義務教育学校として開設されており、そして八坂小中学校は一体型ではないですが、併設型で1校ずつあって小中一環教育という形にしております。ですので、イメージとしては山間部にある学校が小中学校という形になっているというふうにご理解をしていただければと思います。それで今紹介した2校については山村留学という制度を、これも実に古い時からやっています。昭和43年から提案がされて、昭和51年から実施しております。令和7年度までにどれくらいの実績があったかということ、延べ1,500人程度の山村留学者がおります。ところがやはり人口減少と高齢化、受け入れをしてくださる農家の方の高齢化によって、今課題も生じているということです。ちなみに山村留学の支援事業として大町市は2,338万円を投入しております。そのことを紹介させていただきたいと思います。そして次ですが、みんなの学校はもっと面白くする3つの魔法の歯車ということで、魅力がある学校作りを中心にして、

義務教育学校の法制化、学校運営協議会制度の導入、新学習指導要領の実施というこの3つのテーマをきちんとやる中で、みんなの学校を面白くしていくということになっております。甲州市では義務教育学校の法制化ということはやってはおりませんけども、学校運営協議会の制度の導入につきましてはすでに平成29年度に、全市内の小中学校に学校運営協議会は設置しております。そして学習指導要領実施の取り組みについても当然ながら甲州市においても行っていることをお伝えしたいと思います。大町市でも甲州市と同じように、社会に開かれた教育課程の創造と主体的対話的で深い学びの実践化に取り組んでおられました。あと1つだけ特色を言わせていただくと、長野県は3、4年で先生方の異動があります。広い長野県で全県一区の中で異動をします。ですので、校長先生も地元の方ではなかったり、おられる先生なのも地元の方じゃないというような状況になります。苦勞されているのは、校長先生が立てられた学校経営の方針をいかに早く先生方に理解してもらうかということで、毎年毎年苦勞されているというお話を聞いております。そのような状況になっております。今日は、保護者アンケートそれから子供さんへのアンケートの回答が出ておりますので、それを皆様で検討協議をしていただくことがメインになると思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

5. 委員及び事務局の紹介

6. 議事

会 長：それでは議事に入ります。（1）経過説明について事務局お願いします。

事務局：それでは私の方から改めてになりますが、経過説明をさせていただきます。まず初めになぜこの会が開かれることになったのかというところですが、今年の8月に遡りますが、今後の児童生徒数の見込みについて調査があり、その中で調べていくうちに、令和6年度に生まれたお子さんが104人であることが判明しました。そのお子さん方につきましては、令和13年度に小学校に入学される方々です。したがって、今年度令和8年度に小学校に入学をされたお子さんたちが小学校6年生の時に入学されてくるお子さんたちということでございます。先ほど教育長からもお話がございましたが、その令和6年度生まれのお子さんたちが入学する令和13年度におきましては、小学生の合計数が879人、中学生の合計数が539人ということで、非常にここから先少子化がさらに拍車がかかっているということが分かったところであります。先ほど教育長からお話がございましたが、そのことにつきまして、鈴木市長にお話をさせていただいたところ、それについては早々に今後どうしていくのか、そのことについて審議を進めていただきたいと指示がございましたので、今年の2月でございしますが、この会を立ち上げさせていただき2回の審議を行ってきた流れで

ございます。ここまで過去2回の審議の状況でございますが、今回改めて議事録2回分につきましても配布させていただいておりますので、詳細についてはその中でご確認をいただければと思っておりますが、今後の子供さんたちの小学校の適正配置適正規模につきまして、ご意見をお伺いし、今年度末までに、この会としてご意見をまとめて、答申をお願いできればというのがこの会の趣旨でございます。簡単ではございますか、これまでの経過につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

会 長：ありがとうございます。新しく委員になられた方もいらっしゃると思いますので、ただいまの経過説明の中で質問等ありましたらお願いします。

委 員：質問意見なし

会 長：（2）長野県大町市視察研修（学校再編と学校改革について）報告について事務局をお願いします。

事務局：教育長からお話がありましたとおり、5月末に長野県大町市に教育委員の皆さんと一緒に研修を受けさせていただきました。今回お手元に配布させていただきましたのは、その時に大町市さんからいただきました資料でございます。全部で3部でございます。私の方からは、学校再編の取組について説明させていただければと思います。改めてではございますが、大町市につきましては長野県の北西部に位置し、北部が白馬村と接しておりウィンタースポーツが盛んな地域でございます。大町市につきましては、平成18年1月1日に平成の大合併を行っております。旧大町市、それから八坂村、美麻村の1市2村が合併をいたしまして、その当時人口が32,348人だったということでございます。その時の児童生徒数ですが、翌年になりますけども、児童数が1,840人、生徒数が964人ということで2,810人のお子さんがいらっしゃったということでございます。甲州市につきましては、平成17年11月1日に合併しておりますので、若干3ヶ月ほどですが、大町市より合併が早いということでございます。その時の甲州市の人口ですが、34,301人おりました。現在は今年5月31日現在の人口でございますが、大町市が24,770人、甲州市が28,406人でございます。小学生につきましては、1,133人、中学生が640人で1,773人が甲州市の状況でございます。その後、大町市に関しましては、人口減少に伴いまして児童生徒数の減少が出てきているという状況でございます。そのことを受けまして、令和3年でございますが大町市学校再編基本計画を策定したということでございます。大町市の合併当時の学校の状況につきましては、4ページになりますが中学校が3校、小学校が5校それから小学校中学校が同じ校舎で行う義務教育学校が1校という状況でござ

いました。それを再編し、義務教育学校が2校、中学校が1校、小学校が2校という形で、現在再編が行われている状況でございます。先ほど申し上げましたが旧美麻村につきましては、従前から義務教育学校がありましたので、それを現状も維持している状況でございます。八坂村につきましては、小学校1校、中学校が1校という状況でございましたので、そこを義務教育学校1校という形で形成しているという状況でございます。ただし、旧大町市につきましては、小学校4校中学校2校でございました。こちらに関しては、小学校2校、中学校2校として、新たな形で再編を行った流れでございます。再編に伴いやはり範囲が広いということで、再編後の学校に関しては、スクールバスを用意し、小学校については片道2km以上、中学校に関しては片道2.5km以上の児童生徒さんについてはスクールバスで通学している状況でございます。バスは全体14台で運用されている状況です。それから再編後の学校跡地の活用についてでございます。小学校4校、中学校2校からそれぞれ減らしていますので、全体では小中学校が3校減っているという状況でございます。その中で現在旧小学校1校に関しては、令和10年度に長野県で国民スポーツ大会が行われる状況でございます。そちらの事務室として使用を行っている状況ということでございます。小学校2校に関しては、まだ検討中で現在のところまだ未定であるということでお話を伺っているところでございます。先ほどございましたが、もともと八坂小学校、美麻小学校につきましては、小規模の特認校という制度と山村留学という制度を行っておりました。それを引続き行っており、9ページご覧いただければと思いますが、実際の今現在の受け入れ状況ということで示していただいております。全体の児童数のうち八坂小中学校については、児童数の42、生徒数が28人、合計が70人でございます。その中で特認校利用が7人と山村留學生が16人。美麻地区の小中学校に関しては、全体の児童生徒数は96人この中で特認校利用者30人と山村留學生が13人ということで現状も行われている状況でございます。私から説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

会 長：視察の内容について報告でした。内容についてもう少し聞きたいということがあればお願いします。

委 員：質問意見なし

会 長：それでは（3）小学校再編に係るアンケート結果報告について事務局お願いします。

事務局：前回会議でもお話をさせていただきましたが、小学校2年生から6年生、それから小学生の保護者の方を対象といたしまして、学校再編整備に関するアンケ

ート調査を行わせていただきました。まず児童のアンケートでございしますが、児童数が979人のうち回答は932人分ということで、全体の95.2パーセントの児童から回答をいただいたということでございします。残りの5パーセントでございしますが、おそらくその日お休みであったりとか何らかの理由で学校に行かれなかったのではないかなというふうに思っております。この中で、今どの学校に通っているかという質問が問1、それから問2で学校で何が楽しいですかという質問をさせていただきました。その中で一番多かったのが友達と遊ぶことである。2番目が休み時間、3番目が校外活動ですということで結果が出ているところでございします。次に休み時間はどのように過ごしていますかということで、一番多かったのが外で遊ぶ、2番目は教室で友達と一緒にいるということが圧倒的に多かったという結果でございします。問4といたしまして、授業を、多くの友達と一緒に受けたいですかという質問をさせていただきました。そう思うの回答が全597人、少しそう思うが225人で、あまりそう思わない74人、そう思わない51人ということで、結果をいただいたところでございします。次に、授業を他の学校の友達と一緒に受けたいですかという質問では、そう思うが382人、少しそう思うが296人、あまりそう思わないが170人、そう思わないが105人というアンケートの結果が出たところでございします。次に、保護者の皆様にもアンケートを実施しました。問1に關しましては学校と学年についての問でございします。問3につきまして小学校の再編整備についてお考えをお聞かせくださいということでお答えをいただきました。一番多かったのが子供たちの交友関係の幅が広がること、2番目が集団活動やグループ活動の幅が広がり多様な学びができること、その2点が多かったという結果でした。問3-3といたしまして小学校の再編整備は必要ないという回答に關し、その理由についてお尋ねしたところです。一番多かったのが53パーセントの方から現在の教育環境に問題を生じていないという回答、それ以降は、再編整備のメリットが感じられないため、地区の学校がなくなることが寂しいため、の順でした。次に問4として小学校の再編整備について、特に配慮してほしい点を伺いました。一番多かったのが遠距離となった場合の通学手段の確保という方が50パーセント、教員の配置に關しましてが9パーセント、学校の施設整備に關してが10パーセント、一定の規模の確保が必要が2パーセント、学校の跡地の活用が3パーセント、地域や自治会を分断しないが1パーセント、体操服などの統一学用品の取り扱いが8パーセントとなりました。問5ではその他、学校再編整備についてご意見ご要望をお聞かせくださいということで、質問させていただきましたが、そこにもありますとおり非常に多くのご意見をいただいたところでございします。私どもでまとめさせていただきました。まず、期間につきまして、もし再編するとすればいつかよいかという点では、最も見られたのが3年後あるいは5年後という意見でございました。一方ですぐにでも今年度からという意見もあります。また長期的なスパン

10年前後で考えていただきたいという声も多くいただいているところです。次に児童数や学級数の状況についてでございます。まず複式学級が発生する段階で、あるいはそうなる前に再編を進めればよいのではないかという意見、クラス数児童数が減少する、例えば1クラス10人未満あるいは5人以下といったところで再編が必要ではないかという意見をいただいたところです。次に、仮に再編する場合に関して、どんな条件が必要ですかという問いに関しましては、子供たちの教育環境、あるいは安全の配慮、あるいは再編までのプロセスの丁寧さといったところを再優先すべきといったご意見をいただいたところでございます。丁寧な説明と合意形成が必要ではないかということです。それから受け皿、スクールバスなどの通学手段や学童保育などの放課後どうするかといったところについても受け皿を予め用意しておくべきではないか、という意見をいただきました。それから再編につきまして、子供さんたちの未来と教育環境を最優先にすべきという点につきまして、どうでしょうかとのお答えをいただいたところとございます。まず、再編は賛成であるという方のご意見でございますが、社会性や協調性が獲得できるのではないかというご意見。それからクラス替えの必要性があるのではないか。またそのことに伴って、先生方の負担を軽減できるのではないかというご意見をいただきました。逆に再編に関しましては、慎重に進めるべきだ、あるいは反対であるというところで、きめ細かな指導が現在ではできているのではないか。そのことによって、子供たちの安心感が生まれているのではないかという意見がありました。また、多様な選択肢の中で小規模校もあっていいのではないかといったご意見もいただいたところとございます。通学手段に関しまして、また保護者の皆様の負担軽減ということで、スクールバスは必須ではないかというご意見がありました。また共働き世帯も多い中でその方々に配慮いただきたい、自宅から遠くなり送迎が必要になる場合にも市で配慮をいただきたい、というご意見をいただいたところとございます。また、地域社会への影響ということで、ご意見をいただいた中では、地域の伝統が廃れるのが心配だというご意見をいただいているところとございます。やはり丁寧な説明が必要ではないかというご意見をいただいている状況でございます。アンケートの結果につきましては今の概略で説明させていただいたところでありますが、この後、グループワークに入らせていただければと思っております。今回のアンケートの結果に基づいて、それぞれ皆様で思うところを書き示していただければと考えております。ぜひよろしくお願いいたします。

会 長：それでは（４）グループワークについては、ゆっくり回答を読むところから始めていただき、時間になりましたらそれぞれのグループでグループワークを始めていただければと思います。最後に各グループから発表していただきます。よろしくお願いいたします。

事務局：それでは、各グループでまとめた意見の発表をお願いします。

委員：まず前提として、子供たちの将来を考えたときに今の児童数生徒数を見たときに何かしらの改善が必要だろうというようなことで、保護者や地域の人口を考えていただくいい機会に、もちろん教員もそうだし、子供たちもそうだし、いろんな方に考えていただくいい機会として、丁寧に今後進めていくことが大切であるだろうし、皆さんからの多くの意見をもらっていきたいと考える中で、既に分析されているような言葉の中でいくと、一つの事象がメリットにもなるしデメリットにもなる表裏一体の部分があるという話ができました。例えば保護者の立場になると再編した時にももちろん不安もある、それは多くの方の意見もありますが、交通手段の上での不安もあると思いますが、もちろん期待もある、子供たちにとっても多様な考えを聞けるとか、社会性が身に付くだろうというような期待もある。けれども、一方では少人数の中で、小規模校の中で、だからこそ活躍できる子供たちもいる、デメリットもあるというようなこととか、書かれていた児童クラブの問題もあり、今現在も多くの子が児童クラブに通っている中で、その確保などどうなるのかというような意見もあります。小学生は歩いて学校に通う中で地域の方とのふれあいや、その季節に応じた景色を見たりとか、そのような経験もさせたい。学校がなくなることで地域の衰退やつながりが希薄になってしまうのかなとそんな不安もある、すべてにおいてメリットデメリットがあるけれどもそのようなことを自分事として考えながら今後丁寧に審議を重ねていけばいいかなという話ができました。

委員：メリットですけれども、多様な交流ということでたくさんの子供たちが触れ合うことでいろんな友達ができたり、いろんなことを学べる。クラス替えがないと人間関係がどうしても固定してしまいがちなので、クラス替えがあることでいろんな環境で交流できるという意見が多く出ました。再編の時期については3～5年ぐらいを目処にというところです。学習や学校生活については、子供ファーストであれば再編しないよりは再編した方がメリットが上回るのではないかという意見、施設設備も充実させることができるんじゃないかという意見がありました。デメリットとしては、先ほどのグループと同じで、地域の衰退というか、地域の特色が薄れていくのではないか。中には、学校行事なども今それぞれの学校ですごく特色ある取り組みをしています、そういうものももしかしたらできなくなるっていう可能性もあります。保護者についてはやはり不安だと思います。特にスクールバスの通学に関する不安であったり、なかなか目が行き届かない児童の環境などの不安がある。あとは複式学級のデメリットとして、どうしても教職員の負担であったり、学びに限界が生まれそうだという意見がありました。以上です。

委員：児童アンケートの学校で楽しいことの質問回答で、友達と遊ぶこと、休み時間、保護者アンケートでは子供の交友関係や集団活動、グループ活動の幅が広がりについて多くの回答がありました。どちらも仲間との関わりというところを大事にしている、期待していること読み取れます。再編に当たって人数が多くなることは両氏にとって望んでいることなのかなという意見がありました。そのことによりいろいろな友達と関係が持てる、または固定された人間関係ができにくい、コミュニケーション能力が上がる、人間関係がうまくいかないときに逃げ場ができる、というような意見が出ました。また、中学校に入学した時に大きい規模に対応しやすいのではないかなというような意見が出ました。アンケートの中に複式学級についての意見が多くありました。異年齢との関わりというのも大事ではあるのですが、複式学級でなくてもある程度児童生徒がいることで縦割り活動が充実し、学校行事が有意義になる、集団になることで社会性が高まるなどの意見がありました。先ほど登下校の話もありましたが、上級生が下級生を連れて集団登校することも縦割り活動であるのでそういうところも活かしていけるのかと思います。ただ登下校については心配な意見がたくさんありました。スクールバスの導入について50パーセントほど意見がありましたが、私は今塩山中で教頭をしておりまして、スクールバスには多く関わっていますが、導入当初は不備もありましたが、今は安心して登下校できている状況です。現状では塩山中の登下校の時間帯以外は、市内小中学校が校外行事でスクールバスを利用し教育活動に活用できているので、スクールバスの導入が単に安全な登下校に限らず、児童の教育活動のサポートになっていくのではとの意見もでました。最後に跡地の問題も出ましたが、この部分については同時に考えていくのは難しいのではないかな、跡地利用については専門の方にアドバイスをいただいてやっていくことも必要ではないかなという意見も出ました。

事務局：ありがとうございます。各グループで出していただきましたご意見等をまとめさせていただき、総括という形で生成AIにかけました。まず、教育の質と社会性の向上というところで、多様な他者との交わりや協働体験、クラス替えによる人間関係の流動化は、子供のコミュニケーション能力や社会性を育むために不可欠ではないかということでございます。それから大学模化への適応ということで、小規模すぎる中での学習限界があるので、それを回避して、中学校進学以降の大規模な集団生活にスムーズに適応させるべきではないかというのがまとめとして出てきたものでございます。次に課題ということで上げられた点でございます。まず1点目が通学インフラの構築ということで、先ほど来出ましたスクールバスやスクールタクシー等の具体的な運行路線を確保すべきでないかということ、長距離通学や乗り物移動に伴う、児童の安全確保と体力低下への対策も必要ではないかということです。2番目として児童の心理的

ケアと多様性への配慮という点でございます。急激な環境変化による不安、いじめ・不登校リスクへの慎重な対応必要ではないか、また、大人数の集団に適用しにくい子供に対する個別の居場所を確保することも必要ではないかということでございます。3番目が地域コミュニティの維持と跡地の活用ということです。学校がなくなるということになりますと、地域の活力、学校行事であったり、見守りをしている状況そこが低下していくのではないかと、それを防ぐための施策も必要ではないかというところと。また、統廃合によって生じる閉校後の施設の具体的な利活用計画も必要ではないかというところと。4番目が住民理解の醸成と段階的なプロセスということで、今回のアンケートの中では、現状困っていないという意見もございました。そういった方たちへの丁寧な説明と、あるいは3年後、あるいは5年後の統合が必要ではないかといったご意見もありましたので、そういったところを見据えた段階的なロードマップの提示というのにも必要ではないかというところと。さらに、中学校の再編については現在解決されていないところもあるため、そことの整合性を図りつつ、最終的な意思決定の主体を明確にするべきではないかというようなことが全体と意見としてまとめられたところと。ございます。

会 長：グループ討議ありがとうございました。今出されたものが全てのまとめではないので、今後さらに課題ですとかいろいろな立場から幅広くいただいていくのかと思います。本日は児童保護者のアンケート結果から新たな課題や方向性が見つかったということで有意義であったと思います。グループ討議全体について聞き足りなかった部分ご意見、こんな視点もということがあればここで出していただいて、今後の課題としたいと思いますがいかがでしょうか。

委 員：質問意見なし

会 長：それでは（５）その他について事務局から何かありますか。

事務局：次回の会議でございます。まだ具体的な日程は決めておりませんので、また改めてご案内させていただければと考えております。次回に関しましても、できればまたグループワークを、何か題材等を用意させていただいて、グループワークの機会を設けたいなというふうに思っております。もう一点は、私ども長野大町市へ視察をさせていただきました。もし可能であれば、皆様方のご意見も聞きながら、どこか他のところで視察研修を1回するべきではないかなというように考えているところと。ただし慎重すべきである、やはり相手先も公共機関でございますので、どうしても視察は平日の昼間という形になりますので、また改めてそのことに関しまして、ご意見等も伺う機会も次回を持ち

たいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会 長：それでは議事を終了します。ご協力ありがとうございました。

事務局：会長には議事の進行ありがとうございました。委員の皆様には活発な意見交換を行っていただきありがとうございました。

7. その他

事務局：その他に入ります。何かございますでしょうか。

委 員：次回の開催時期についておおよその予定はありますか。

事務局：これから農繁期になってきます、委員の皆様にも農業をされている方もいるかもしれませんが、特に影響がなければ7月あるいは8月に開催したいと考えております。

8. 閉会

事務局：筒井副会長より閉会のことばをお願いいたします。

副会長：遅い時間から長時間にわたり活発な意見ありがとうございました。非常に難しい問題だと私も遅ればせながら実感しているところですが、これからの甲州市の子供たちのためにお力を貸していただければありがたいと思います。以上を持ちまして閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。